

平成 29 年度 英語が好きなる学校づくり事業 取組報告書

事務所名	盛岡	学校名	八幡平市立田山小学校	TEL	0195-73-2047
------	----	-----	------------	-----	--------------

英語に親しみ、積極的に（進んで）コミュニケーションを図る楽しさを実感できる子どもの育成

【ねらい】

- 1 親しみながら英語に慣れ親しむための手立てを探る。
- 2 積極的にコミュニケーションを図るための授業の在り方を検討する。
- 3 教員（指導者）側の英語に対する抵抗感の払拭の手立てを探る。

【具体的な取り組み】

- 1 親しみながら英語に慣れ親しむための手立てについて

（1）外国語活動の校内研修の充実

- ① クラブルームイングリッシュスキルアップ研修として、集会時に職員室で ALT による 10 分程度の研修（ALT〇〇先生の英語ぺらぺら講座）を行った。下記は取り組みの一部である。

主な内容	本校職員の感想
■ほめる言葉 ・ That's right ・ Good ・ Well done ・ Perfect ・ Excellent ・ Super 他	○たった 10 分間なのに、これだけの英語の発音。とても効果的だと思った。 ○教職員自ら声に出して発音することはとても大切だと感じた。短時間でも「やる」「やらない」では大きな違いがあると思う。継続してできたらと思う。 ○言葉だけではなく、表情やジェスチャーも交えて伝えることが大切だと思った。ALT をお手本にしたい。 ○普段使えそうな言葉を、どんなタイミングで、どう使い分けて、活用するのか、分かりやすく教えていただきました。 声のトーンやジェスチャーも大事なんだと。 ○「笑顔」や「ジェスチャー」の大切さを感じた。
■いろいろなゲーム ・ ポイティングゲーム ・ キーワードゲーム ・ スリットクイズ ・ ミツツゲーム ・ ステラゲーム	○楽しかった。少しずつ、知識や語彙を増やしていけたらと思う。 ○子どもの立場で参加したことで、自分が行うときの進め方のコツを考えることができた。 ○子どもたちがどんなことを学習しているのかわかった。 ○こんな感じで気楽にできると楽しい。



- ② 毎月 1 回、担任による英語の読み聞かせを行った。英文を読むのではなく、簡単な英語を使ったり、ジェスチャーや表情を交えたりして、コミュニケーションを楽しむことを目的とした。内容理解とは別に、「また聞きたい。」と感想をもった児童がほとんどだった。感想等の一部である。

【はらぺこあおむし：エリックカール】

低学年	<p>お話がわかった…37% お話が少しわかった…50% わからなかった…13%</p> <p>○あおむしが食べ過ぎて、楽しかった。</p> <p>○先生の読み方がおもしろかった。</p> <p>○最後のちょうがきれいだった。 他</p>
中学年	<p>お話がわかった…75% お話が少しわかった…25% わからなかった…0%</p> <p>○お話が楽しかったし、おもしろかった。</p> <p>○あおむしが、月曜日に、リンゴを一つ食べたところがおもしろかった。</p> <p>○あおむしが食べ過ぎて、太ったところがおもしろかった。 他</p>
高学年	<p>お話がわかった…85% お話が少しわかった…15% わからなかった…0%</p> <p>○知っていた話だったけれど、英語で改めて聞いてみておもしろいと思った。</p> <p>○虫の名前とポケモンの名前が似ていることがわかった。</p> <p>○How are you?と、みんなで一緒に言ったところが楽しかった。また聞きたい。</p> <p>○知らない英語も「なるほど!」と思った。もっとたくさん英語を覚えたい。</p> <p>○英語でも、あおむしが何をしているのかがわかりました。</p> <p>○英語を聞いて、(何のことか)考えるのが楽しかった。 他</p>

読み手のふり返り

どのようなイチャにしたら、どんな声のトコにしたら、どこまで短い単語にしたら、全学年が楽しめるのか考えることで、自分の英語分析、内容分析の勉強になった。繰り返しの言葉の面白さがあった。



(2) 日常的なクラスルームイングリッシュの活用



小学校外国語活動研修ガイドブック記載のクラスルームイングリッシュの一部を各学級に配付し、朝の会や帰りの会、外国語活動以外の授業でも活用した。

日直：November Fourth Monday.
 みんな：How's the weather now?
 日直：It's sunny.
 みんな：OK.



(3) 外国語活動に関わる校内の環境作りや工夫

他校の外国語活動教室を参考にさせてもらい、多目的ホールを外国語活動の教室として整備した。また、各教室などに英語の表示をするなどして、普段から英語に慣れ親しめる環境作りに努めた。



2 積極的にコミュニケーションを図るための授業の在り方について

(1) 外国語活動における学習活動の展開や指導の工夫

- ① 授業で学習した内容を、学級内だけではなく、職員にもインタビューする活動を取り入れた。そうすることにより、職員を巻き込んで、外国語活動や英語へ触れる場の設定ができる上に、担任ではなくても、どんな外国語活動の学習を行っているのか把握することができた。(職員には事前に、インタビュー内容や回答例は知らせておいた。)

【6年「When is your birthday?」から】



児童：Hello. When is your birthday ?
先生：My birthday is 22nd December.
児童：Oh, really ? Thank you ! Bye.

- ② 同じ中学校区で行われている「交流英語（同じ学年での外国語活動の合同学習）」や、4年生以下の外国語活動の学習において、担任も一緒に活動に参加して楽しんだ。

(2) 教材・教具・デジタルコンテンツの活用の工夫

授業では、大型テレビモニターを使うことがほとんどだが、全校の読み聞かせの場合は、書画カメラを用いて絵本を見やすくしたり、どの単元を誰が授業するときもスムーズに行えるように、絵カードを整理しておいたりした。教材・教具・デジタルコンテンツを活用することにより、効果的な指導が図られる他、子どもの興味・関心を引き立てる場面が多いことがわかった。

(3) ALT の効果的な活用

毎週 ALT が来校できる環境を有効に使い、ネイティブな発音により多く触れさせるような授業展開や活動を取り入れた。

3 教員（指導者）側の英語に対する抵抗感の払拭の手立てについて

(1) 自校にあった校内研修計画の立案

本校職員の経験等を踏まえた上で、何が必要なのか共通理解し、計画立案して取り組んだ。職員数がとても少ないため、無理なくこなせる取り組み方法を検討した。

(2) 外国語活動のイメージをつかむための授業研究

毎年1回は校内研修で外国語の授業提供をすることとし、全職員が外国語活動のイメージをもつことができるように取り組んだ。また、進学先の中学校の授業を参観する機会も設け、学習した。

【授業実践：6年「What do you want to be?」から】

	主な学習活動	学習活動の様子
導入	1 あいさつ 2 Jingle 3 課題把握	  <p>ALT と積極的にあいさつをしている様</p> <p>シングルでジェスチャーをつけながら歌っている様子</p>
展開	4 課題解決 (1) 会話を思い出す (2) Chant (3) インタビューゲーム (4) Today's story	   <p>ALTとHRTでデモンストレーション後、子ども同士でしている様子</p>
終末	5 ふり返り 6 あいさつ	  <p>友達やALTにインタビューしている様子</p> <p>ふり返りを書いている様子 「みんな、いろんな夢をもっているんだと思った。」「OO先生の夢がわかって意外だった。」</p>

【成果】

(1) 児童の意識調査（外国語やコミュニケーションに対する意識等）から

アンケート結果を考察すると、外国語（英語）や外国語活動、交流英語に興味・関心がある児童が多かった。しかし、外国語（英語）興味・関心がない、進んで話すことがないと回答している児童もいたことは事実で、理由を聞いてみると、「恥ずかしいから」「わからないから」という内容だった。そのことをふまえ、今後、誰でも気兼ねなく楽しく参加できるような取り組みを考えていく必要がある。

将来、外国語（英語）が必要と考える児童は100%であったことから、最近の社会性や職業の種類など多岐にわたっていることが子どもながらも感じていることが伺える。

(2) 校内研究に関わる職員アンケート（推進上の成果や課題、今後に向けての方向性等）から

クラスルームイングリッシュを週1回、月1回、5・6年生担任以外であっても活用している職員が多かったことから、日頃から慣れ親しもうとしている姿が伺える。ALTの英語ぺらぺら講座や、担任による英語の絵本の読み聞かせ等についても、職員同士や児童と職員が楽しみながら実践していた様子が見られた。英語の読み聞かせについては、「英語が難しいという垣根をとっているようだ」「子どもが喜んでいる」「やってみてよかった」という意見が多く、自らが楽しんで研修したり進めたりしていくことが何よりも大切である。

授業の延長で先生方にインタビューを行ったことに関しては、「目的をもって英語を積極的に使うことができた」「慣れている人以外の人とも英語を試す機会は、実践的・体験的に良い経験となった」など、今後も取り入れていくことができそうな感想がほとんどだったため、今後は幅広く実践を広げていくことができると考える。

「ALTに任せっきりになっている」という意見もあるのが事実だった。また、外国語（英語）を話さないといきなり語彙力が落ちていくことも事実であるため、今後も定期的に研修を設定して、普段から慣れ親しめる環境作りを継続して行うことが大切である。今後の不安としては、英語力がどこまで求められるのかという意見があったため、校内研修を実施するなどして、共通理解を深めていきたい。